



エナジウムパークに飾られている大凧

能代凧の不思議

市民リポーター 幸坂マチ子 早川鈴美

「昔は空が凧で真っ黒になるほど、能代で凧あげが盛んだった」。こんな逸話を耳にしたことがあります。舌を「べー」と出したユニークな絵柄。そんな能代凧の不思議について調べるとともに、凧の普及と継承に力を注ぐ団体の活動を紹介します。



能代凧の特徴

- ・一人絵であること
- ・7色の原色を使用しているのであざやかであること
- ・白い部分が多い（あがった凧は、太陽光線を通し絵柄がより明るく美しく映える）

絵柄

- ・義経のような勇ましい武者
- ・昔のお芝居や講談に登場する豪傑
- ・恵比寿や大黒のようなめでたい神様
- ・だるまや金太郎
- ・べらぼう

全部で32種類ありますが、その中でも現在、ポピュラーなものは7、8種類だそうです。



男べらぼう



女べらぼう

県外の友人からの一言

昔は正月ともなればあちらこちらで凧あげの姿が見かけられたものです。能代の町では年中あらゆる場所で「凧」を目にすることが出来ます。駅の観光ポスター、エナジウムパークの巨大凧、居酒屋の看板、そしてわが家の玄関にも子どもが作った能代凧が飾られています。



地元のお酒のラベルにも使われています。



和凧のルーツは中国から

県外に住む友人から「能代から送られたお酒のデザインにベロリンと大きな舌を出した派手な絵があっただけじゃないだろうか」という疑問が寄せられました。確かに舌を出すということは、あつかんべえと相手を小ばかにする行為なので、それが街中にあふれているからにはなにかしらの理由があるはずだと今回、能代凧について取材することになりました。

凧のことをほとんど知らないわたしたちは、まず、凧について調べました。凧は、今から1000年以上前に中国から日本に伝わってきたと言われています。それが、和紙・竹・麻糸という凧を作るのに絶好の材料に恵まれてい